

作成日 2007 年 10 月 2 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	:ウレタンシーリング
仕様	:色：グレー
会社名	:株式会社MonotaRO
所在地	:〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名	:商品お問合せ窓口
電話番号	:0120-443-509
FAX番号	:0120-289-888
緊急連絡先	:所在地と同じ
推奨用途及び使用上の制限	:塗装を必要とするコンクリート目地。RCの打継ぎ目地、誘発目地。スレート、フレキシブルボード、GRCの目地。ひび割れの補修。所定の用途 以外には使用しないこと。本製品は、日本国内に限定して使用して下さい。
整理番号	:M260825

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

区分に該当しない。

(引火性液体、可燃性固体を含む全ての区分に該当しない)

健康有害性

生殖毒性：区分 2

GHS 分類結果が「区分に該当しない」、「分類できない」の項目は記載していない。

GHS ラベル要素



注意喚起語 (GHS JP)

警告

危険有害性情報 (GHS JP)

H361 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

注意書き

安全対策 (GHS JP)

P203 使用前にすべての安全説明書を入手し、読み、従うこと。

P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

- P273 環境への放出を避けること。
- P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面／聴覚保護具等を着用すること。
- 保管 P233+P235+P403
容器を密閉して涼しい所／換気の良い場所で保管すること。
- 廃棄 P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に業務委託すること。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

飲込みによる胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢。

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	CAS 番号
ウレタンポリマー (NCO 基末端)	20～30%	-	登録済
メチレンビス(4、1-フェニル)＝ジイソシアネート (MDI)	0.3%	(4) -118	101-68-8
フタル酸ジイソノニル (DINP)	1～3%	3-1307	28553-12-0
炭酸ジメチル (DMC)	5～10%	2-2853	616-38-6
酸化チタン (IV)	1～3%	1-558	13463-67-7
水酸化カルシウム	1.5%	1-181	1305-62-0
カーボンブラック	0.1%未満	(5) -5222	1333-86-4

※含有量(濃度)については営業秘密の為、含有(濃度)範囲として記載

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	一液形ポリウレタン樹脂系シーリング材

4. 応急処置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連

皮膚に付着した場合

絡すること。

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。多量の水と石鹼で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。皮膚刺激(かゆみ、炎症等)が生じた場合、医師の診断、手当を受けること。

眼に入った場合

清浄な水で直ちに 15 分以上、まぶたの裏を含め洗眼すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗眼すること。その後も洗浄を続け、直ちに医師の手当、診断を受けること。

飲み込んだ場合

直ちに清浄な水で口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師の手当、診断を受けること。

予想される急性症状および遅発性症状

飲込みによる胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢。接触による皮膚の刺激と脱脂および眼の刺激。

応急措置をする者の保護

救助者は必要に応じて適切な保護具(手袋、ゴーグル等)を着用する。

医師に対する特別注意事項

情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤/使ってはならない消火剤

大量の噴霧水を放出する。噴霧水以外の水を消火に使用しないこと。水がないときは二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤、乾燥砂あるいは土を用いる。

特有の危険有害性

燃えるが容易に引火しない。燃焼により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素、窒素化合物)が生成する。煙を吸入しないように注意すること。

特有の消化方法

火元への燃焼源を断ち、ガスの滞留しない場所で風上より消化し、漏洩防止処置を施す。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な防護服(手袋、眼鏡、マスク、給気式呼吸用保護具)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項/保護具及び緊急時の措置 漏洩場所を喚起し関係者以外の立ち入りを禁止する。密閉された場所に立入る前に換気すること。作業者は適切な保護具（『8.暴露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、目、皮膚への接触や吸入を避けること。

環境に対する注意事項 漏出物が環境中（河川、下水等）に漏出しないよう、土砂、土のう等で防止すること。河川、希釈水は汚染を引き起こす可能性があるので注意すること。環境中に放出してはならない。付近に着火源がある場合は消火剤を用意し、漏出した製品の流出を土砂、土のう等で防止すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 危険でなければ漏れを止める。吸着材（乾燥土、砂、土、ウエス、不燃材料）で吸収し、あるいは覆って密閉できる容器に回収する。大量の場合は、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

二次災害の防止策 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）と共に消火剤を準備する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

換気のよい場所で取り扱うこと。呼吸器、眼、手、皮膚又は衣類に付けないよう適切な各保護具を着用し直接の接触を防ぐこと。ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。取扱後はよく手、顔等を洗い、うがいをする。静電気対策の為、装置・機器のアース処置を行い、周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止すること。空気

中の水分・湿気により硬化する為、容器開封後は速やかに全量を使い切ること。『10.安全性及び反応性』を参照

保管

安全な保管条件

通気の良い5℃～25℃（一時的に超えても35℃以下厳守）の屋内冷暗所にて保管すること。湿気厳禁、日光から遮断すること。容器を密閉して保管すること。

安全な容器包装材料

包装、容器の規制はないが、密閉式の破損しないものにいれる。

8. 暴露防止及び保護措置

化学名又は一般名	濃度基準	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
メレンビス(4,1-フェニル)=ジイソシアネート (MDI)	設定されていない	設定されていない	0.05mg/m ³	TLV-TWA0.005ppm
酸化チタン (IV)	設定されていない	設定されていない	第2種粉塵 吸入性粉 1mg/m ³ 総粉塵 4mg/m ³	TLV-TWA 10mg/m ³
フタル酸ジイソノニル (DINP)	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない
炭酸ジメチル (DMC)	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない
水酸化カルシウム	設定されていない	設定されていない	設定されていない	TLV-TWA 5mg/m ³
カーボンプラック	設定されていない	3.0mg/m ³	第2種粉塵 吸入性粉塵 77μm 以下 1 mg/m ³ 総粉塵 4mg/m ³	TLV-TWA 3.0 mg/m ³

※酸化チタン (IV)、水酸化カルシウム、カーボンプラックについて

本製品の物理的性質はペースト状の固体であり、取扱者の粉塵吸入のリスクが低いと判断し、以降の設備対策・保護具に粉塵対策を記載していない。

設備対策	換気をしながら使用すること。本製品を貯蔵または使用する設備は眼洗浄施設及び安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	作業者がガスや蒸気にさらされる場合有機ガス用防毒マスクを使用する。
手の保護具	不浸透性の保護手袋を使用する。
眼の保護具	有機溶剤対応型の保護具（ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	長袖作業服。必要により不浸透性の保護服および保護長靴を使用する。

9.
物理的及び化学的性質

外観	
物理的状态	固体
形状	ペースト状
色	グレー
臭い	微臭
pH	データ無し
融点	データ無し
凝固点	データ無し
沸点	データ無し
引火点	40℃未満
自然発火点	データ無し
分解温度	データ無し
可燃性	データ無し
爆発限界（vol%）	データ無し
蒸気圧	データ無し
相対密度	データ無し
密度	1.40～1.50 g /cm ³
相対ガス密度	データ無し
溶解度	水に不溶。ベンゼン、トルエン、MEK等多くの有機溶剤に可溶。
n-オクタノール/水分配係数（Log Pow）	データ無し
動粘度（動粘性率）	データ無し(粘度：200～500 Pa・s)
粒子サイズ	データ無し
粒径分布	データ無し

粒子形状	データ無し
粒子アスペクト比	データ無し
粒子比表面積	データ無し

10. 安定性及び反応性

反応性	空気中の水分と反応する。
化学的安定性	通常の条件下では安定である。
危険有害反応可能性	開封すると空気中の水分と反応し、炭酸ガスを発生しつつ、徐々に硬化する。
避けるべき条件	5℃～25℃の屋内冷暗所で保管すること。
混触危険物質	強酸化剤、水、アルコール、アミン等活性水素化合物と反応し発熱する。強酸化剤とは反応して危険。
危険有害な分解生成物	燃焼などにより CO 等の有害ガスを発生する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	分類できない。
経皮	分類できない。
吸入（気体・蒸気）	分類できない。
吸入（粉じん・ミスト）	分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	分類できない。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	分類できない ※本製品に含まれる水酸化カルシウムはその粉体吸入により区分 2A とされるが、本製品は固体（ペースト状）であり分類できないとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない。
生殖細胞変異原性	分類できない。
発がん性	分類できない。 ※区分 2 に該当する（酸化チタン(IV)）を濃度 1%以上含有している為区分 2 に分類されるが、これは粉体吸引の場合である。本製品は固体（ペースト状）であり分類できないとした。

生殖毒性

区分 2

※区分 2 に該当する(フタル酸ジイソノニル)を濃度 3%以上含有している為区分 2 に分類される。

特定標的臓器毒性（単回暴露）

分類できない。

特定標的臓器毒性（反復暴露）

分類できない。

誤えん有害性

区分に該当しない。

※本製品は混合物(固体)であり飛散しない。従って、含有する有機溶剤以外は経皮・吸入を考慮する必要が無い。

以下の有害性情報は、分類できないとした。

- ・ 経皮
- ・ 吸入（粉じん・ミスト）
- ・ 皮膚腐食性及び皮膚刺激性
- ・ 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性
- ・ 呼吸器感作性又は皮膚感作性
- ・ 発がん性
- ・ 特定標的臓器毒性（単回暴露）※気道刺激性等、呼吸器に関する情報
- ・ 特定標的臓器毒性（反復暴露）※気道刺激性等、呼吸器に関する情報

1 2. 環境影響情報

生態系一般

漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるため取り扱いには注意する。

水生環境有害性 短期（急性）

分類できない。

水生環境有害性 長期（慢性）

分類できない。

残留性・分解性

データ無し。

生体蓄積性

データ無し。

土壤中の移動性

データ無し。

オゾン層への有害性

分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄物の処理及び清掃に関する法律の分類では、廃プラスチック類に該当する。乾燥硬化後、最大径 15 cm以下に粉碎、切断して埋立処分するか、都道府県条例等に基づく焼却処理か、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装

内容物を完全に除いた後処分する。処理は法規に定めるところに従う。

1 4. 輸送上の注意

道路輸送（UN RTDG）	海上輸送（IMSG）	航空輸送（IATA）
国連番号		
非該当	非該当	非該当
国連正式品名		
非該当	非該当	非該当
輸送危険物分類		
非該当	非該当	非該当
容器等級		
非該当	非該当	非該当
環境有害性		
環境有害性：非該当	環境有害性：非該当 海洋汚染物質：非該当	環境有害性：非該当

国内規制
陸上規制

消防法、労働安全衛生法、毒劇物取締法に該当
する場合は、それぞれの該当法規に定められてい
る運送方法に従うこと。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は、通知すべき危険物及び有
害物
法第 57 条 1 及び 2、施工例第 18 条 1 及び 2 別表
第 9
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート（MDI）
酸化チタンⅣ
水酸化カルシウム
フタル酸ジイソノニル（DINP）
炭酸ジメチル（DMC）
がん原性物質：非該当
皮膚等障害化学物質：水酸化カルシウム(1.5%)※
（皮膚刺激性有害物質 eye(眼)のみ該当）

※本製品は固体である為、分類出来ない

国連番号	非該当
品名（国連輸送品名）	非該当
クラス	非該当
容器等級	非該当
有機溶剤中毒予防規則	非該当
消防法	第二類 引火性固体 危険等級Ⅲ
PRTR 法	非該当
輸出貿易管理令	輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項
四アルキル鉛中毒予防規則	非該当
火薬類取締法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律	
ばら積み輸送	非該当
個品輸送	非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物

※適用法令の各項目では、表示・通知対象等に該当し閾値以上含む場合のみ記載

16. その他の情報

ホルムアルデヒド放散量区分：（日本シーリング材工業会）ホルムアルデヒド汚染対策のための自主管理
規定 JSIA-852012 F☆☆☆☆

※「ノンホルムアルデヒド製品」：ユリア/メラミン/フェノール/レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド系防腐剤等のホルムアルデヒドを発散する原材料を使用していない製品のこと。

危険・有害性の情報は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。

以前お渡しした本製品の安全データシートをお持ちの方は破棄してください。

法改正や製品の改正により SDS を改定する場合がありますので、改定日より 2 年以上経過しているものについては最新版であるかどうかご確認ください。

免責事項

当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わず、いかなる保障をするものではない。製品の取り扱い、使用、保管又は廃棄条件、海外輸送といった事象は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがあるため、製品の取り扱い、使用、保管、または廃棄によって生じる損害、損

失または費用に対する責任は、直接、間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある

【参考文献】

- 1) 原料メーカーのSDS
- 2) 安全衛生情報センターのGHS分類結果データベース
- 3) 製品評価技術基盤機構(NITE)のデータベース
- 4) 「製品安全データシートの作成指針(改訂2版)」(日本化学工業協会)
- 5) 「労働安全衛生法MSDS対象物質全データ(改訂2版)」(化学工業日報社)
- 6) JIS Z 7252:2019 および JIS Z 7253:2019

※ 本「安全データシート」は、当社の製品を安全にご使用していただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたものです。※ 記載内容のうち、含有量、構成比率、物理化学的性質などの値は、代表値であって保証値はありません。※ 本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。また、内容は新しい知見に基づき改訂されることがあります。※ すべての化学品には未知の有害性がありうるため、また危険・有害性の評価も必ずしも十分でないため取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任に於いて、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。

改訂履歴

2007.10.2	初版
2015.9.29	GHS 分類改定
2021.5.10	JIS Z7253:2019 に準拠。及び GHS 分類の見直し
2022.9.3	火災時の処置の内容変更
2024.1.16	労働安全衛生法 2024.4 施行内容反映
2026.3.31	労働安全衛生法 2025.4(2026.4 含む)施行内容反映
2026.8.19	各所表記の見直し